

経営比較分析表（平成29年度決算）

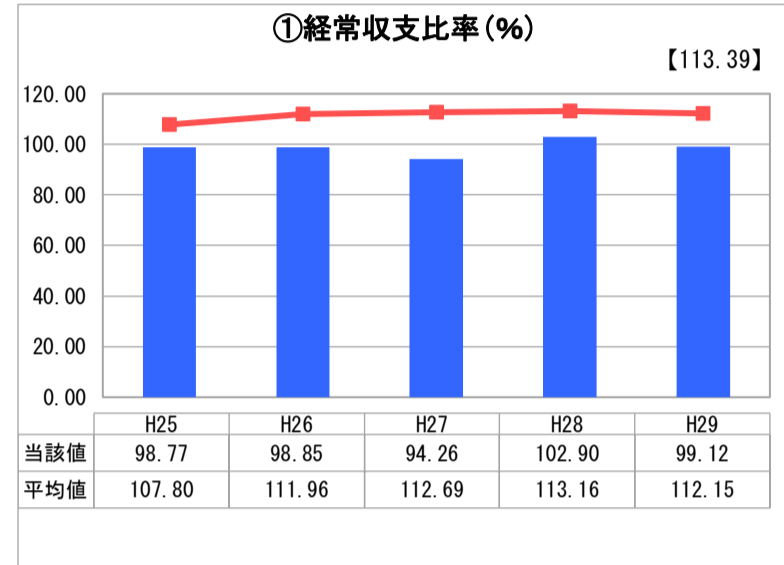
福井県 坂井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.81	99.97	2,376	

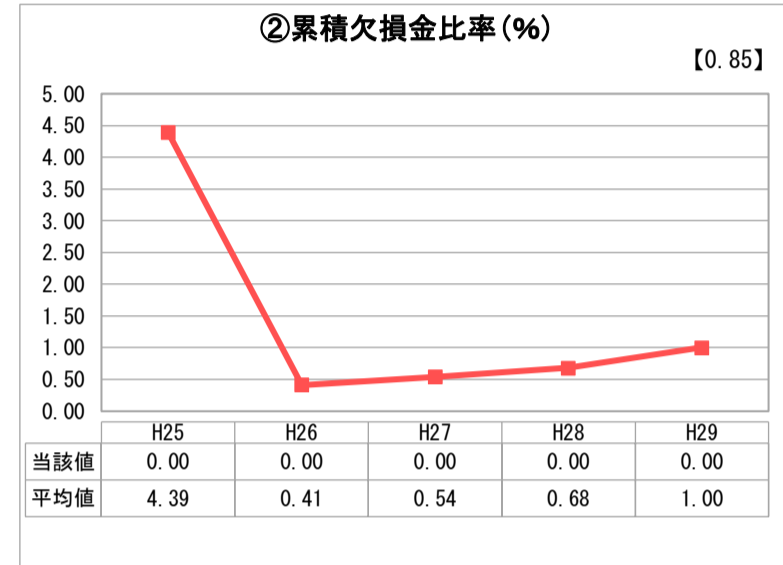
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
92,508	209.67	441.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
92,102	162.09	568.22

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

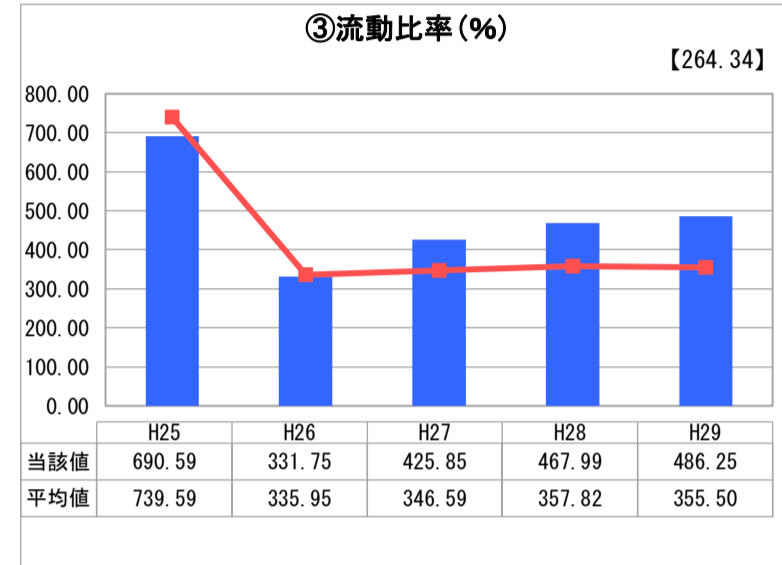
1. 経営の健全性・効率性



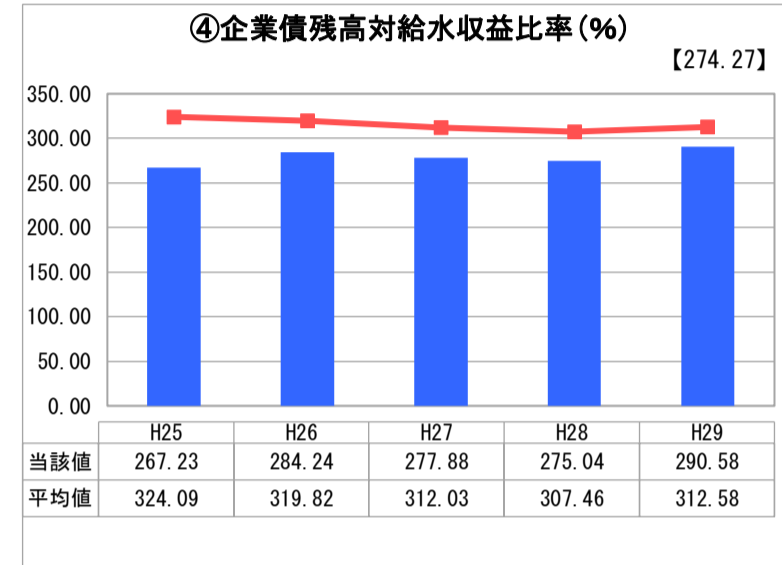
「経常損益」



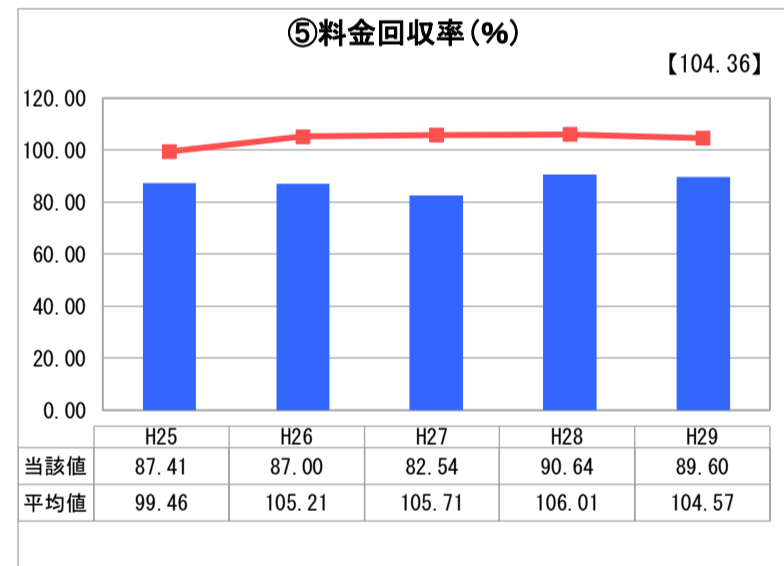
「累積欠損」



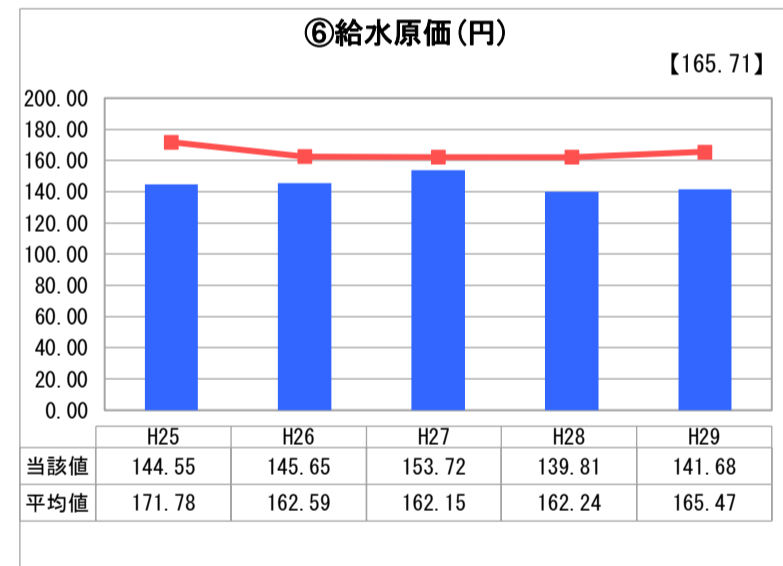
「支払能力」



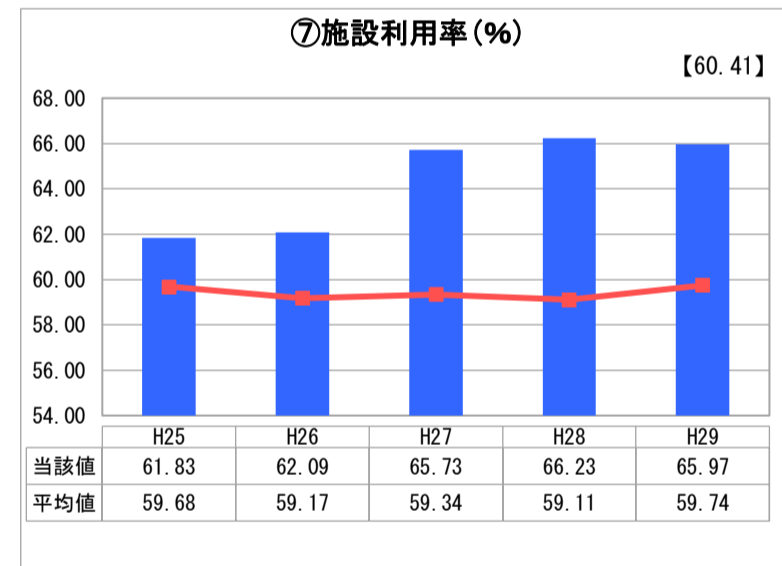
「債務残高」



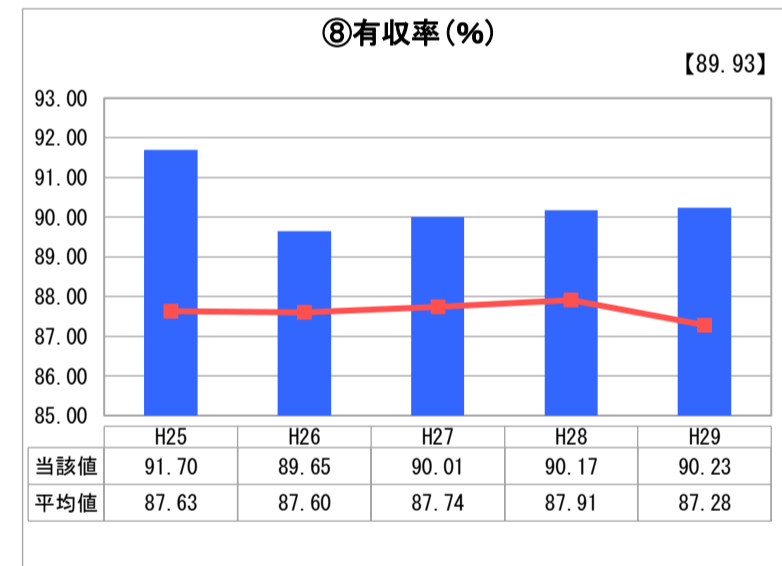
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

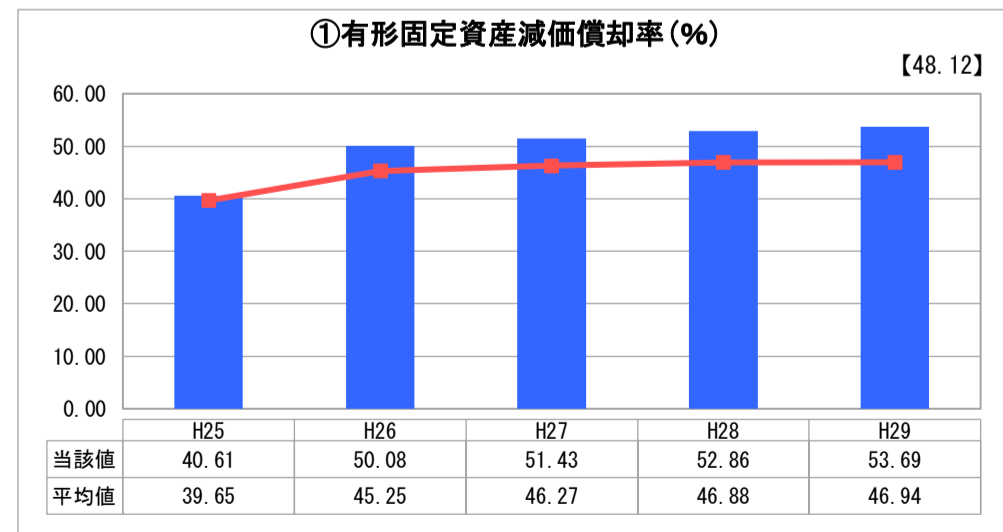


「施設の効率性」

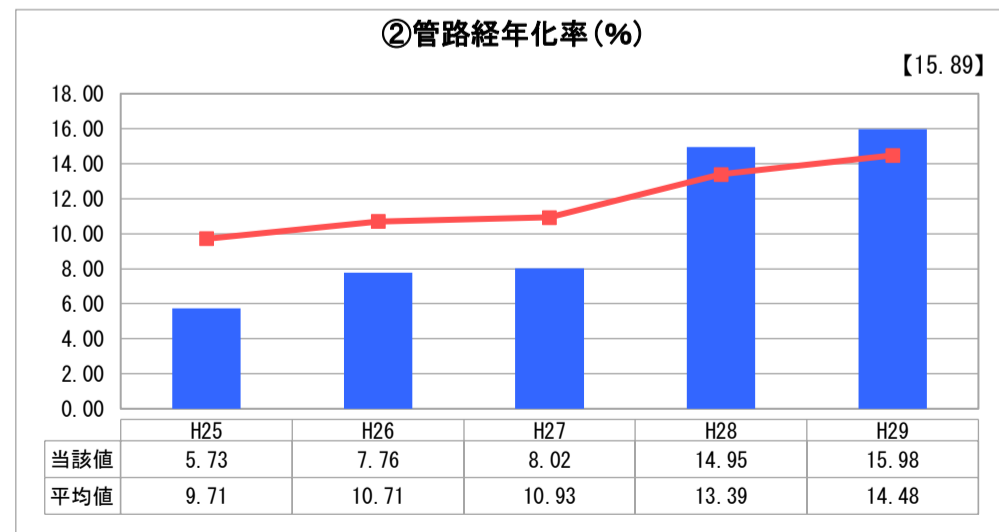


「供給した配水量の効率性」

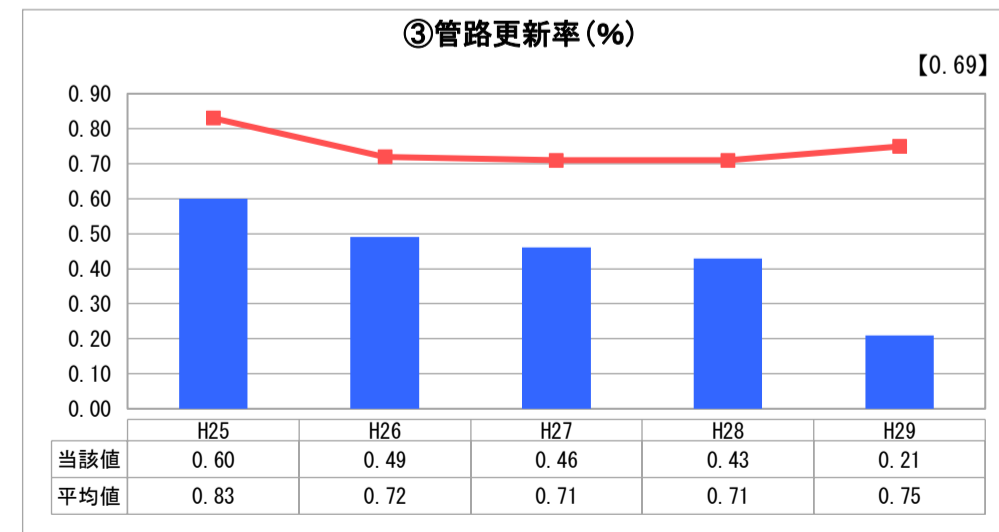
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は単年度収支赤字により100%を下回った。
 ②累積欠損金比率は0%、③流動比率は100%を上回る水準を維持しており概ね健全な経営を行なっている。
 一方、⑤料金回収率は100%を下回っており、基準外繰入は行なっていないものの、今後に向けて適切な料金収入の確保が必要である。
 ④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均を下回っているが、配水池建設による多額の起債借入をおこなったことと給水収益の伸びが見込めないことから、今後数値は悪化すると思われる。また、老朽施設の更新費用も増大していく事を考慮すると、適切な料金収入の確保が急務といえる。
 ⑥給水原価は類似団体平均を下回っており、有収水量1mあたりの費用は抑えられている。
 ⑦施設利用率は類似団体平均を上回っており、遊休状態の施設はなく、効率的に利用ができていている。しかし、季節による需要変動に対応できる運転管理が必要である。
 ⑧有収率は類似団体平均を上回る水準を維持している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回っており、保有財産が法定年数に近づきつつある。
 ②管路経年化率は、これまで類似団体平均を下回っていたが、近年、法定年数を迎える資産が増えることから経年化資産がこれまで以上に増加し、経年化率も上昇すると見込まれる。
 一方で③管路更新率は、順次更新を進めてはいるものの、機械設備の更新を優先しているため、類似団体の平均を大きく下回っている。施設と管路の重要度、優先度を十分に考慮した計画的更新を行っていく必要がある。

全体総括

経営の健全性、効率性については概ね健全で効率的な運営が行なわれており、類似団体と比較しても総じて良好といえる。
 包括的民営委託を開始し経費削減による経営の効率化を図ったところではあるが、水需要の減少による料金収入の増が見込めない一方で経年化資産が増え、老朽化資産の更新は進んでいない。
 以上のことから、資産の維持費も含めた適正な水道料金設定による料金収入の確保と、現実的な投資計画・更新計画の見直しを行い将来を見据えた経営改善を図る必要があると考える。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。